

「OPI テスターへの挑戦で学んだこと」

山藤弘子

これまで、主に留学生を中心に日本語のレッスンをしてきました。しかし、ここ数年、オンラインを使って海外や国内在住の日本語学習者の方にもレッスンをする機会が増えました。老若男女、学習の目的、そしてレベルも様々です。そんな中、これまでの教え方だけでレッスンをしても、なかなか学習効果が上がらず、学習者自身のモチベーションが下がって行くのを感じました。

そこで出会ったのが、OPI でした。今回、OIP テスターへの挑戦で、初めて約 80 人の日本語学習者（日本語使用者）にインタビューをさせていただきました。一人一人と面と向かって、じっくり話を聞く中で、その方の日本語の使用環境が見えてきました。例えば、お父様はアメリカ人、お母様は日本人という生活環境の方。また、母国フランスの大学で日本語学科を卒業し、アニメが大好きで来日している方。家庭では中国語オンリーだが、ママ友とは日本語という方。一口に日本語使用者といっても、十人十色で誰一人同じような方はいませんでした。これまで、「このような文型と語彙を使っているから初級」、「敬語ができてから上級」などと、ひとくくりに分けていたことがとても恥ずかしく思え、また、学習者の方には申し訳ないことをした気持ちになりました。

今回、OPI のインタビューは、「漢方薬局の薬剤師のようだな…」と感じました。患者の話丁寧に聞いて、その方が生活で十分に何ができて、何が不足しているのかをヒヤリングしているかのようなようでした。

患者一人一人に合ったオーダーメイドの薬を処方するように、このOPI テスターの技術を身につけた教師は、その方にあった実用的なレッスンプランをたてることができると思います。

今回、OPI テスターの技術を身につけることは、想像していた以上に大変でした。思うようにインタビューができず、何度も悔しい思いをしました。しかし、この挑戦の中でこれまで自分がどんな教え方をしてきたのか、何度も振り返りが起きました。大げさかもしれませんが、これは、これからの私の日本語教師人生においても、とても価値ある経験だったと思います。そして、普段のレッスンでも、教師からの質問は、できる限り学習者の日本語能力を最大限に引き出すような意味のあるものにしていくべきだと学びました。

OPI テスターの資格は取得しましたが、やっとスタートラインに立てたばかりです。これからも、絶えず振り返り、学び、技術を磨いていきたいと思えます。